

# 目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (草木編)
- 3 童謡 冬の夜
- 4 早口ことば 坊主が屏風に上手に坊主の絵を描いた
- 5 今月の詩 ペチカ 北原白秋
- 6 たし算 9の段
- 7 ことわざ 住めば都 損して得取れ 高みの見物  
大は小を兼ねる 立て板に水
- 8 かけ算 同じかけ算
- 9 俳句 松尾芭蕉 村上鬼城 上島鬼貫
- 10 かぞえうた 1房 1足 1領 (ぶどう、下駄、鎧)
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた もちつき
- 13 今月のうた 江戸時代
- 14 四字熟語 毀誉褒貶 捲土重来 終始一貫
- 15 イメージトレーニング クロス君 (第9話 100年後)  
(イメージしてみましよう)
- 16 おはなし 笠地蔵
- 17 漢詩 芙蓉楼に辛漸を送る
- 18 百人一首 祐子内親王家紀伊 文家康秀 従二位家隆 良暹法師
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

# 早口ことば

ぼうず びょうぶ じょうず ぼうず え か  
坊主が屏風に上手に坊主の絵を描いた



# ペチカ

きたはらはくしゅう  
北原白秋

ゆきゆきのふるよ夜は たのしいペチカ  
ペチカ燃もえろよ お話はなししましよ  
むかしむかしよ 燃もえろよ、ペチカ

ゆきゆきのふるよ夜は たのしいペチカ  
ペチカ燃もえろよ おもてはさむ寒い  
栗くりや栗くりやと 呼よびます、ペチカ

ゆきゆきのふるよ夜は たのしいペチカ  
ペチカ燃もえろよ じきはる春来ます  
いまに楊やなぎも 萌もえましよ、ペチカ

ゆきゆきのふるよ夜は たのしいペチカ  
ペチカ燃もえろよ 誰だれだか来ます  
お客きやくさまでしよ うれしい、ペチカ

ゆきゆきのふるよ夜は たのしいペチカ  
ペチカ燃もえろよ お話はなししましよ  
火ひの粉こぱちぱち はねろよ、ペチカ



# ことわざ

## す みやこ 住めば都

どんなところでも住み慣れると良いところだと思ふものだ。



## そん とくと 損して得取れ

目先のわずかな利益を捨てても、将来の大きな利益を得るようにせよ。



## たか けんぶつ 高みの見物

気楽な立場で事のなりゆきをながめること。



## だい しょう か 大は小を兼ねる

大きいものは小さいものの効用をあわせ持っているの  
で、大きいものの方が使い道が広い。



## た いた みず 立て板に水

すらすらとよどみなく話すこと。



俳句

ふゆごも 冬籠り また寄り添わん この柱

まつお ばしろう  
松尾芭蕉



ふゆばち 冬蜂の 死にどころなく ある歩きけり

むらかみ きじょう  
村上鬼城



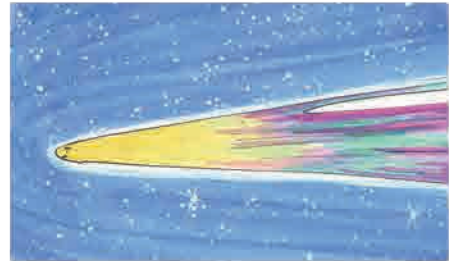
みずどり 水鳥の おもたく見えて う浮きにけり

うえしまおにつら  
上島鬼貫



# なぞなぞ

- 1 星<sup>ほし</sup>は星<sup>ほし</sup>でも食<sup>た</sup>べられるすっぱい星<sup>ほし</sup>はなあに？
- 2 お願<sup>ねが</sup>いごとをする星<sup>ほし</sup>はなあに？
- 3 せんたくものがいっぱいある星<sup>ほし</sup>はなあに？
- 4 だしがよくとれる星<sup>ほし</sup>はなあに？



## 《もちつき》

☆【つきて】と【かえして】にわかれてむかいあう

① ペっ



【つきて】 【かえして】

② たん



③ こ



④ ペったんこ  
もちつき  
ペったんこ

①～③を3かい  
くりかえす。

【つきて】・・・みぎ手を上からうちおろす。

さいごまでこのうごきをくりかえす。

【かえして】・・・♪たんのとき、【つきて】の下の手をたたく。

⑤ それ



⑥ つき



⑦ かえせ



①～②とおなじ

【つきて】のりょう手のあいだを  
えんをかくようにまわす。

⑧ やれ つきかえせ

⑤～⑦をくりかえす。

⑨ もうじきつけるぞ

①～③をくりかえす。

⑩ ペっ



【つきて】の上を  
たたく。

⑪ たん



なか  
中をたたく。

⑫ この



した  
下をたたく。

⑬ ペったんこ

した なか うえ  
下・中・上の  
じゅんで手をたたく。

# 今月のうた

## 《江戸時代》

1600年 <sup>ねん</sup> 関ヶ原の戦いで <sup>せき が はら たたか</sup> 徳川家康勝利 <sup>とく が わ い え や す し ょ う り</sup>

1603年 <sup>ねん</sup> 江戸幕府をひらく <sup>え ど ば く ふ</sup>

幕府が藩をおさめる <sup>ば く ふ は ん</sup> 幕藩体制 <sup>ば く は ん た い せい</sup>

三代将軍 <sup>さん だい し ょ う ぐ ん</sup> 徳川家光 <sup>と く が わ い え み つ</sup> 参勤交代 <sup>さん きん こ う たい</sup> 鎖国の完成 <sup>さ こ く か ん せい</sup>

江戸幕府の三大改革 <sup>え ど ば く ふ</sup> <sup>さん だい かい かく</sup>  
徳川吉宗 享保の改革 <sup>と く が わ よ し む ね</sup> <sup>き ょ う ぼ う かい かく</sup>  
松平定信 寛政の改革 <sup>まつ だいら さ だ の ぶ</sup> <sup>かん せい かい かく</sup>  
水野忠邦 天保の改革 <sup>み ず の た だ く に</sup> <sup>て ん ぼ う かい かく</sup>



江戸時代の四つの学問 <sup>え ど じ だい</sup> <sup>よ っ</sup> <sup>が く も ん</sup>  
朱子学 国学 陽明学 蘭学 <sup>し ゅ し が く</sup> <sup>こ く が く</sup> <sup>や う め い が く</sup> <sup>らん が く</sup>



上方中心 元禄文化 <sup>か み が た ち ょ う し ん</sup> <sup>げ ん ろ く ぶ ん か</sup>  
江戸が中心 化政文化 <sup>え ど ち ょ う し ん</sup> <sup>か せい ぶ ん か</sup>

1853 黒船が浦賀に来航 <sup>くろ ふ ね</sup> <sup>う ら が</sup> <sup>らい こ う</sup>

そのあと結んだ条約 <sup>む す</sup> <sup>じ ょ う や く</sup> 日米和親条約 <sup>に ち べ い わ し ん じ ょ う や く</sup> 日米修好通商条約 <sup>に ち べ い し ゅ こ う つ う し ょ う じ ょ う や く</sup>

日本の鎖国は終わる <sup>に ほ ん</sup> <sup>さ こ く</sup> <sup>お</sup>



ぎ よ ほうへん  
毀譽褒貶

わるくち い  
悪口を言うこととほめること。



けん どちららい  
捲土重来

いち どしつ ばい もの ふたた いきお  
一度失敗した者が、再び勢いをもりかえしてくる  
こと。

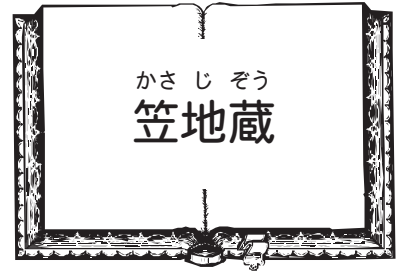


しゅう し いっ かん  
終始一貫

かんが たいど さいご か  
考えや態度などを最後まで変えないこと。

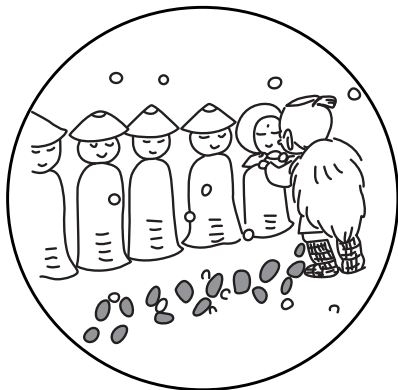
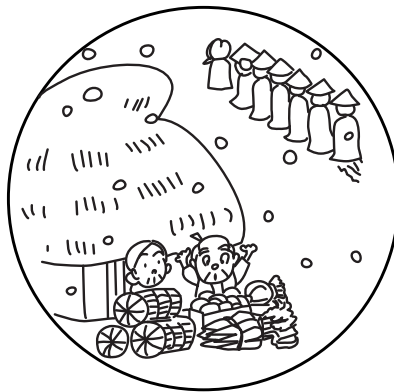
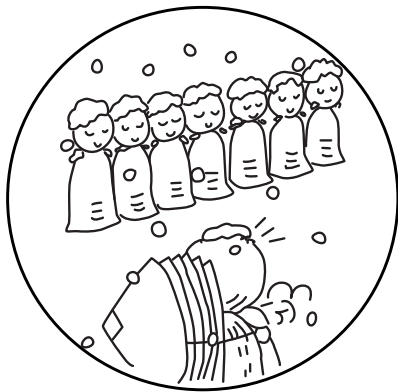


# おはなし



「<sup>かさ</sup>じ<sup>ぞう</sup>」は、<sup>ゆき</sup>の<sup>ふ</sup>る<sup>さむ</sup>い<sup>ひ</sup>に、<sup>じ</sup>ぞう<sup>さま</sup>に<sup>かさ</sup>をかぶせてあげたおじいさんの<sup>はなし</sup>のお話です。  
お話を聞いた<sup>あと</sup>で、<sup>しつもん</sup>質問にこたえてみましょう。

- 1 おじいさんは、<sup>まち</sup>町へ<sup>なに</sup>何を<sup>う</sup>売りに<sup>い</sup>行きましたか。
- 2 <sup>う</sup>売れなかった<sup>もの</sup>物は、<sup>なに</sup>何と<sup>と</sup>取り<sup>か</sup>替えましたか。それはいくつありましたか。
- 3 お地蔵様は、いくつありましたか。
- 4 おばあさんはおじいさんの<sup>はなし</sup>話を聞いて、<sup>おも</sup>どのように思いましたか。
- 5 お地蔵様はどうして<sup>こめ</sup>米や<sup>やさい</sup>野菜を<sup>も</sup>持ってきた<sup>おも</sup>と思いますか。



芙蓉楼にて辛漸を送る

王昌齡

寒雨江に連なりて夜呉に入る  
平明客を送れば楚山孤なり  
洛陽の親友如し相問わば  
一片の氷心玉壺に在り

百人一首

音おとに聞きく

たかしの浜はまのあだ波なみは

かけじや袖そでの濡ぬれもこそすれ

(祐子内親王家紀伊)

吹ふくからに

秋あきの草木くさきのしをるれば

むべ山風やまかせをあらしといふらむ

(文屋康秀)

風かぜそよぐ

ならの小川おがわの夕暮ゆうぐれは

みそぎぞ夏のなつしるしなりける

(従二位家隆)

さびしさに

宿やどを立ち出いでてながむれば

いづこも同じおな秋あきの夕暮ゆうぐれ

(良暹法師)



文屋康秀